

政治学〈G02A〉

配当年次	1・2年次
授業科目単位数	4
科目試験出題者	中島 康予
文責(課題設題者)	中島 康予
教科書	指定 加茂 利男・大西 仁 他『現代政治学』[第4版]以降(有斐閣)

《授業の目的・到達目標》

現代政治の様々な諸問題を考えるために必要な、基本的理論・概念・分析枠組を学修し、政治現象を、法律学的な観点からではなく、政治学的に考察することを通じて、その成果を実際に応用して現代政治についての理解を深めることをめざします。

《授業の概要》

一般に政治学が取り扱う対象は政治現象であるといわれています。しかし、政治現象とは何をさすのかと問われ、それに答えるのは容易ではありません。「グローバル化」が進展し、私たちの住んでいる身近な「地域社会」の政治、「国内政治」、「国際社会」でおこっている政治現象が密接に関連するようになっている今日においてはなおさらです。地方・国・地域・世界の各レベルでの政治が相互にからみあう政治現象を的確に捉えるためには、常識や直感、表層的な印象に頼るのではなく、専門分化する政治学の1つ1つの研究成果を丁寧に追いながら、それをまとめあげていく粘り強い作業が不可欠になっています。1990年代以降の国内政治と国際政治の動向からみえてくることは、政治的知見と見識に裏打ちされた、私たち市民の政治参加が今後ますます重要になってくるだろうという点です。政治学はそのような政治参加に不可欠の学問です。

上記のテキストによりながら、最初に、政治とはそもそも何だろうかという考察から始め、政治と権力、政治・経済・福祉の関係、政治制度と政治過程、公共政策と行政、政党と政党制、選挙制度、近代の国際政治と現代の国際政治、グローバル化と政治の変容、核兵器、飢餓と食料問題、地球環境問題といった地球的問題群の学修を進めたあと、政治学の理論潮流をまとめていきます。そして最後に、今日の世界・社会において現代政治学がどのような役割を果たすことができるのかをみなさんで考えてみてください。

政治学学修のために最低限必要な事項はこの教科書で概観することはできますが、さらに深く知ろうと思う人は、教科書の各章の終わりに掲げられている参考文献、レポート課題集で紹介している推薦図書、さらにそれらの推薦図書の中で紹介されている書物・論文等を積極的に講読してください。

《学習指導》

履修条件は、とくにありません。教科書を通読すること、必要な箇所を何度も開くことを怠らないようにしましょう。基本的な概念については政治学事典などで調べ、ノートにまとめましょう。また、憲法や行政法などの法律学における法的・制度論的思考にはおさまらない学問的蓄積が政治学ではなされていることに注意してください。政治学はそのような制度の背後で展開される政治過程を考察の対象としています。さらに学問的な研究と、メディアにおける政治評論とは密接な関係をもちながらも両者は異なることを忘れないようにしましょう。

《成績評価》

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

政治学〈G02A〉

- ◎課題文の記入：不要（課題記入欄に「課題文不要のため省略しました。」と記入すること）
- ◎字数制限：1 課題あたり 2,000 字程度（作成基準のとおり）

第1 課題

大統領制と議院内閣制の特徴を、執政長官（大統領制の場合は大統領、議院内閣制の場合は首相）のリーダーシップという観点から比較・整理した上で、第二次世界大戦後の日本の首相のリーダーシップについて論じてください。

第2 課題

官僚が主人（主権者）の命令にしたがって行動する側面と、官僚制が独自の論理にしたがって行動している側面についてデモクラシーの観点から考察した上で、1990 年代以降の日本の官僚制の変化について論じてください。

第3 課題

熟議（討議・審議）デモクラシーのデモクラシー論における意義について概観した上で、熟議デモクラシーの具体的な取り組みを1つとり上げて、そのメリットと課題について考察してください。

第4 課題

世界における飢餓の現状・原因・解決策について、政治学・政治理論の視座から考察してください。

〈推薦図書〉

建林 正彦・曾我 謙悟 他	『比較政治制度論』（2008 年）	有斐閣
川崎 修・杉田 敦（編）	『現代政治理論』〔新版〕（2012 年）	有斐閣
篠原 一（編）	『討議デモクラシーの挑戦』（2012 年）	岩波書店